



1. ライブドア事件に思う

東京地検特捜部の突然の強制捜査から堀江社長の逮捕まで1月のメディアはライブドア事件関連が大変目立ちました。全容解明は今後の捜査の進展によりますが、現時点での所感を述べさせていただきますと思います。

今回のライブドア事件は、ある意味でシンボリックな出来事だと思います。

まずは、第一に企業経営者や監査人に対する高い職業倫理観が問われていることです。

法律の不備を突いて法律の網をぎりぎりの線で抜けることや、自己に都合の良いように法律を拡大解釈し、自己の利益のみを追求することは経営者の倫理観が欠如しているといえます。社会正義や社会的な利益、消費者の利益になるよう常に考えるべきだと思います。

次に、粉飾決算などの証券取引法違反や他の法律違反、いわゆるコンプライアンス（法令遵守）の問題です。

今年の5月に施行される会社法では、会計参与制度の導入などがあり、大企業はもとより中小企業においてもいままでに比べ、より透明性の高い経営内容の公開を求められています。

規制緩和における金融自由化の中で、投資家などに自己責任を負ってもらう場合、当然のことながら正しい企業の財務内容や業務内容を公開することが大前提となります。

そして、三つ目は投資家に対する警鐘ではないかと思います。

デイトレーダーなどの短期の値動きで利ざやを稼ぐ人が増え、企業分析やチェックもほとんどせず、目先の利益だけを追い求め、あたかもギャンブルをするような感覚で株式を売り買いすることは、まさに投機といえます。

投機筋が増えると、それを利用したがる傾向の企業を生みやすい土壌となることでしょう。

投資家にもしっかりした哲学と倫理観にもとづいた投資をしていただければと思います。

安定した投資家（社会や企業の利益も考えることができる）の元、企業も長期に安定成長をすることにより、投資家、企業そして、社会も豊かになることが理想の姿だと思います。

2. 雪での死傷者数が過去最悪に

山形県内での今冬、雪による死傷者の数が1月29日現在で220人（うち死亡者が9人）になりました。（朝日新聞社調べ）

過去最悪となった2000年度の220人（うち死亡者11人）とすでに並び、今後その数字を上回るのは必至と見なされています。

特に、雪下ろし中の死傷者が150人にもものぼり、雪下ろしの危険性が浮き彫りとなりました。また、屋根からの落雪や転倒などによるケガも多いと報道されています。

雪によるケガに対応する有効な保険は普通傷害保険となります。

普通傷害保険は、交通事故だけではなく、日常生活時（旅行・スポーツも含む）のけがや仕事中のけがも補償の範囲としていて、幅広い補償が特徴となります。

一般的に、普通傷害保険では地震などの天災危険（地震・噴火・津波）によるケガは補償の対象とはなりません。天災危険担保特約を付けることにより補償の対象となります。

また、普通傷害保険では、家族タイプや夫婦タイプの契約形態があります。家族の人数は何人いても保険料は同額となります。

よって、本人1級職（比較的危険の小さい職種）で、別紙の「傷害保険のご案内」補償内容では、4名以上の家族の場合、お得な保険料となります。

本人2級職・3級職の場合は、なんと家族数3名でも保険料はお得になります。

大家族の場合は、1名あたりの保険料が安くなるので、大きなメリットとなります。

モデル保険例では、当社独自の全員同額プランなので、補償内容がとてもわかり易いです。

また、天災危険担保特約付きなので地震におけるケガも補償の範囲となります。

さらに、個人賠償責任特約が付いているので第三者への損害賠償補償も万全です。

家族の範囲は、本人から見た同居の血族6親等以内、姻族3親等以内で、配偶者と未婚のこどもは同居しなくとも補償の範囲となります。

一家に、常備薬とともに家族傷害保険はいかがですか。

3. 雪道・凍結路の安全走行のポイント

①スピードを十分落とす

雪道・凍結路では、スピードを十分落とすということが絶対条件となります。また、積雪のない道路を走行している場合でも、朝晩や山間部、橋上などは路面が凍結しているおそれがありますので、スピードを落として走行します。

なお、前方の交差点が黄信号・赤信号の場合は、早めにブレーキを踏んで減速します。

減速のタイミングが遅れると、交差点の手前で停止できずに交差点に進入してしまう危険がありますから十分気を付けなければなりません。

②車間距離を十分とる

雪道・凍結路では停止距離が非常に長くなることを常に念頭に置いて、前者との車間距離を十分にとっておきます。特に滑りやすい交差点では車間距離を長くとることが重要なポイントとなります。

③急のつく運転をしない

急ハンドル、急ブレーキは厳禁ですが、急発進、急加速、急激なシフトチェンジも避ける必要があります。

④カーブでは手前で十分に減速する

カーブの途中でハンドルとブレーキの同時操作をすると、スリップする危険性が非常に高くなります。したがって、カーブの途中でブレーキを踏まなくても済むように、カーブの手前であらかじめ十分に減速しておく必要があります。また、積雪のためセンターラインの見えないカーブでは、対向車線にはみ出さないよう十分注意します。

⑤下り坂ではエンジンプレーキを活用する

スピードの出やすい下り坂では、あらかじめシフトダウンをしてエンジンプレーキを活用

して走行します。坂の途中でブレーキを踏んだりシフトダウンをするとスリップする危険がありますから注意しましょう。

⑥ブレーキはソフトに踏む

雪道・凍結路では、ブレーキの踏み方が適切でないとスリップしてしまいます。特に、強くブレーキを踏むとタイヤがロックしスリップしたり横滑りしたりする危険がありますから注意しましょう。

⑦前方が見えにくい時は一時待機する

吹雪などで前方が見えにくい時には、最寄りの退避場所や安全な場所（高速道路ではサービスエリアやパーキングエリア）で一時待機し、吹雪がおさまるのを待つようにします。特に地吹雪の場合、前方車両も見えなくなることもあるので注意が必要となります。

⑧わだち（轍）のある道路では慎重に走行する

わだちのある道路では、タイヤをとられてスリップしたり、タイヤがはまって抜けなくなるなどのトラブルが発生することがあります。わだちに入る前に減速するとともに、わだちの状態をよく観察して、わだちに逆らわず走行するようにします。

道路が狭くなり車両同士がすれ違うことが困難になる場合もあるので、早め早めの対応で、ゆとりの行動をすることも大切です。

※滑りやすい雪道・凍結路では、ちょっとした操作ミスが重大な事故に結びつきますから、必ずスピードを落とし車間距離を十分にとるとともに、常に周囲の状況や路面の状態に目を配って慎重な運転を心がけることが大切です。

4. 投資入門講座

今回は投資信託（ファンド）を説明したいと思います。

投資信託は、いままで証券会社・銀行・保険会社で販売されていました。昨年からは当社や郵便局でも取扱いを始め、身近な投資商品になっています。

また、投資信託は資産運用に適した商品といえます。

投資信託とは、複数の投資家から集めた資金を1つの基金とし、ファンド・マネージャーと呼ばれる運用の専門家が、その資金を最適だと思われる複数の投資対象（株式や債券など）に投資する金融商品です。

そして、その運用で得られた利益は、投資金額に応じて投資家に分配されます。

つまり、投資家は、1つの投資信託を購入する事によって、いくつもの株式や債券を少しずつ買うのと同じメリットが得られます。これが、投資信託の最大の魅力です。このメリットを分散効果といいます。

もちろん、ご自身で個別の株式や債券を選択し、複数銘柄に投資しても分散効果は得られます。しかし、多くの個人投資家にとって、複数の株式や債券に直接投資しバランスよく分散させるのは2つの意味で容易ではありません。

まず、多額の資金が必要となります。最近では株式の最低投資価格の引き下げが相次いでいますが、それでも株式を1銘柄購入するには平均して約50万円必要だともいわれています。

それを分散効果を得るまで何種類も買うことは、多額の資金が必要となり大変です。

また、仮に十分な資金を持っていたとしても、多大な労力が必要となります。投資する銘柄を選ぶときはもちろん、投資した後も株式や債券を購入した複数の会社について大量の情

